



# Zero Carbon Park , NORIKURA KOGEN

— 中部山岳国立公園 乗鞍高原におけるサステナブルな地域づくりの取り組み —

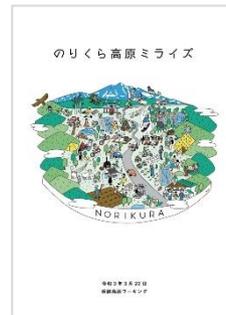


※令和5年3月23日時点

※本資料では主に進展した取り組みを中心に掲載

## 1. 中部山岳国立公園と乗鞍高原

- 中部山岳国立公園は、北アルプス一帯を占める日本を代表する山岳の国立公園。乗鞍高原は、公園南部に位置する標高3,026mの剣ヶ峰を主峰とする乗鞍岳の東麓（標高1,200～1,800m）に広がる高原地帯。
- 令和3年3月22日、地域関係者協働により**地域づくりビジョン**である「**のりくら高原ミライズ**」\*を策定。ゼロカーボンの推進を重要取組事項として定め、その将来性などが認められたことから、令和3年3月23日に日本初のゼロカーボンパークに登録。  
\*併せてのりくら高原ミライズ構想協議会を設置し、取組事項について進捗管理
- 令和4年4月26日には「のりくら高原『ゼロカーボンパーク』の具現化」として**脱炭素先行地域**にも選定され、多様な取組が地域一体となって実施されている状況。



のりくら高原ミライズ表紙



一の瀬から望む乗鞍岳

## 2. 地域の脱炭素化に向けた議論

- 令和4年6月に「**乗鞍ゼロカーボンサミット**」を開催し地域関係者及び専門家が集い、**二次交通、人材（地域プレイヤー）確保、次世代のゼロカーボン拠点施設のあり方などについて議論**。
- 令和4年9月より「**乗鞍ゼロラボ**（乗鞍高原においてゼロカーボンを学び、実験と実践を共有するコミュニティ型ラボ）」を5回に分けて開催。地域内外より意欲ある参加者が集い、**再生可能エネルギーやフードロス、モビリティ等、各分野の前線で活躍する講師とともに積極的に議論**。



ゼロラボのMTGをフィールドで実施（3回目/全5回）

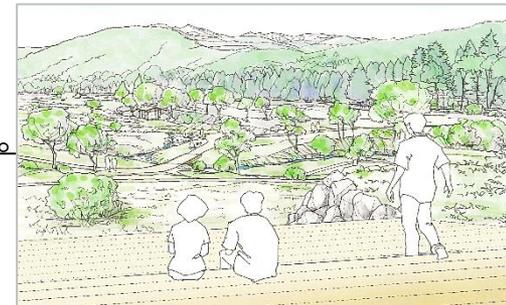
## 2.地域の脱炭素化に向けた議論

・**脱炭素先行地域**の目標「**ゼロカーボンパークの具現化**」の達成に向け、以下（全体の一部）の取組みを実施。

- ✓ のりくら高原ミライズ構想協議会「**小水力発電**」チームで地区住民の意見を踏まえた検討会議を開催。
- ✓ 「**木の駅**」事業プロジェクトの構築に向け、事業検討会を実施。  
前川下流のダム湖に堆積した流木の利活用の可能性と問題点を整理。
- ✓ 松本市乗鞍観光センターを「**ゼロカーボン拠点施設**」としての機能を併せ持つ施設として再整備するため、地域関係者と協働でワークショップを開催（令和5年1月までに計5回開催）し、協議を重ね、松本市乗鞍観光センター再整備基本構想・基本計画を策定。
- ✓ のりくら高原ミライズ構想協議会「地域づくり分科会」において、地域関係者と協議を重ね、環境省直轄事業として一の瀬再整備の実施設計を完了。令和5年度より着工予定。座望庵周辺の園路には小看板を配置し、修景伐採がゼロカーボンや草原生態系の維持に寄与していることを視覚的に伝えるための設えを施し、乗鞍高原だからこそ伝えられる人と自然の共生のあり方を発信予定。なお、座望庵についてはZEB化を予定。



乗鞍観光センター再整備俯瞰イメージ



一の瀬再整備デッキからのパノラマイメージ

## 3.脱炭素の取組の実践

・ のりくら高原ミライズ構想協議会「草原再生・景観形成分科会」では、広大な草原を有する一の瀬において、乗鞍高原本来の景観再生を目指し修景伐採を行い、伐採木を循環利用（具体例は次項を参照）。この取組みは修景効果だけでなく、草原生態系の維持に大きく貢献し生物多様性保全を達成。

※乗鞍高原における脱炭素の取組は、元々地域に根付く、自然を活かし、自然に生かされるサステナブルな暮らしの延長に位置づけられていることが重要。



のりくら高原トレイルズイベント案内

# 3.脱炭素の取組の実践

- ・のりくら高原ミライズ構想協議会「フィールド整備分科会」では、修景伐採木を活用したベンチを設置、またチップ化された材をトレイル整備に活用。
- ・令和4年6月に新ブランド「[NORIKURA KOGEN TRAILS](#)」のオープニングイベントを開催。約80名が参加。乗鞍高原の美しい自然を、車ではなくハイキングやMTBで体験できるモデルルートを設定し、トレイル整備のための協力金の仕組みも導入。整備協力金を払っていただいた方には、修景伐採木を使用した白樺コースターを配布。**保護と利用の好循環**を目指す。



白樺コースター

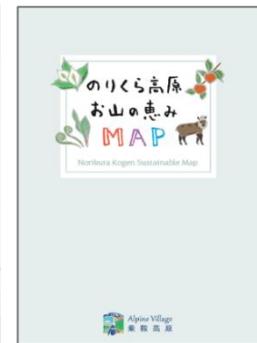


トレイルの入り口：トレイルヘッド

- ・乗鞍高原の宿泊施設・飲食店等への太陽光発電設備や蓄電池、木質バイオマスストーブ導入が行われており、のりくら高原ミライズ構想協議会「ゼロカーボン分科会脱炭素設備導入支援チーム」が各宿、個人宅への導入をサポート。
- ・乗鞍高原におけるサステナブルな取組みを分かりやすく情報発信するための[ランディングサイト](#)及び[サステナブルマップ「お山の恵みMAP」](#)を更新。
- ・マイボトル持参で割引や給水スポットsweeの設置を継続し、旅行者に地域の脱プラを体験してもらうきっかけを創出。



薪ストーブ導入事例



お山の恵みMAP

- ・令和4年12月より、対象宿泊施設でアメニティの使い捨て歯ブラシの提供を受けない宿泊客に一人300円分のデジタルクーポンを付与する事業「まつもとエコ旅キャンペーン」に積極参加。



マイボトルと給水スポット



ゼロカーボンパークランディングサイトページ

## 4. サステナブルツーリズムの試行的取組

- ・ 観光客や地域住民の足としてモビリティの検討を進めるため、電動アシスト自転車のシェアサイクルステーションを時限的に開設。
- ・ 令和4年9月「[のりくらアウトドアサミット](#)」を開催。NISSAN EV車の試乗会を行うとともに、PLUGOのEV充電スタンドの操作を体験できるコーナーを設置。また、イベント収益の一部をトレイル整備に還元。
- ・ [中部山岳国立公園パートナーシップ](#)企業である「ハチドリ電力」から寄付金受領。乗鞍高原の環境保全や地域活性化に資する使い道を想定。
- ・ 令和4年9月及び11月に民間企業を対象に、サステナブル研修ツアーを実施。ツアー参加者とともにゼロカーボンアクションを考えるワークショップ、景観整備の取組みについてのインタープリテーション、MTBトレイルツアー、トレイル整備等を実施。
- ・ 令和4年10月、[GO GREENプロジェクトin長野](#)2022「乗鞍のゼロカーボンに触れる旅」として2泊3日ツアーを催行。最終日には、日本みどりのプロジェクト推進協議会主催のサステナブルツーリズム・トークセッション「[自然と共生する旅と持続可能な地域づくり](#)」を乗鞍高原で開催。



自転車のシェアサイクルステーション



のりくらアウトドアサミット特設ページ



景観整備作業の様子



景観整備の取組についてのインタープリテーション



サステナブルツーリズム・トークセッションの様子

## 4. サステナブルツーリズムの試行的取組

- 令和4年10月及び11月、一の瀬の草原再生活動の理解促進とあわせた白樺の伐採木を用いたベンチ制作、トレイル維持を前提にしたトレイルランニングを行うワーケーションモニターツアーを実施。移動式ワーケーションプレイスの試行としてオフグリッドトレーラーの検証をし有用性を確認。
- 令和5年1～2月に3名に乗鞍高原へ約1ヶ月間の長期滞在モニターツアーを受入。域内の様々な活動に参加するとともに、サステナブルなライフスタイルについて、意見交換会の実施や、SNSを通じた発信を行い、「関わりしろ」の創出を実現。



ベンチ制作の様子



長期滞在モニターツアー参加者との意見交換会



オフグリッドトレーラー



ワーケーションの様子



トレイルランニング講習